

【2023 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等		
生理学 (作業療法学コース/作業療法学科中心)		(リ作.作) 必修 (福.人) 選択	2	1	前期		
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー				
稲場 直子		naoko.inaba	水曜日 13:00~15:00 Teams 受付を原則とする				
授業の目的・概要	生理学とは生命現象の仕組みを解き明かす学問である。本科目では、生命現象の基盤となる細胞の構造と機能、体液の組成と働き、神経情報伝達の仕組み、筋収縮の仕組み、神経系の働きによる身体の運動調節の仕組みなど、身体の機能が適切に保たれる仕組みへの理解を深め、生命に対する畏敬の念を養う。						
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク )						
学習上の助言	「生理学」は非常に広い学問分野ですべての専門科目の基礎となる科目であるので、毎回の講義内容をきちんと復習して次回の講義に備えること。講義では資料を配布するが復習は配布資料だけに頼らず必ず教科書に基づいて学習すること。予習・復習で疑問が生じた場合は Teams などを通じて随時質問し早めに解決すること。						
教科書	生理学 第3版 /著:内田さえ 他 /編:東洋療法学校協会 /医歯薬出版						
参考書	カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版 /編:岡田隆夫 /メジカルビュー社						
外部教材	特になし						
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針			
①	細胞の構造と機能・体液等の働きについて理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)、RH(2)			
②	神経が活動する仕組みと神経系の働きについて理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)、RH(2)			
③	筋が収縮する仕組みについて理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)、RH(2)			
④	運動調節について理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)、RH(2)			
授 業 計 画							
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)				
1	オリエンテーション・総論	講義	教科書「第1章」、「第15章」の各項目を予習、復習する。	4			
2	第1章 生理学の基礎、第15章 身体活動の協調について学習する。			4			
3	第10章 神経(1) A. ニューロンの構造と働き、B. 神経線維の興奮伝達 について学習する。			4			
4	第10章 神経(2) C. シナプス伝達について学習する。			4			
5	第10章 神経(3) D. 中枢神経系の分類と機能、E. 反射、F. 脊髄、G. 脳幹 について学習する。			4			
6	第10章 神経(4) H. 小脳、I. 視床、J. 視床下部について学習する。			4			
7	第10章 神経(5) K. 大脳、L. 脳脊髄液 について学習する。			4			
8	第10章 神経(6) M. 末梢神経系、N. 自律神経系について学習する。			4			
9	中間試験(小テスト) 達成度評価・評価のポイント参照			中間試験の結果をまとめ、できなかった項目について復習する。		4	
10	まとめと総括			4			
11	第11章 筋 について学習する。			教科書「第11章 筋」の各項目を予習、復習する。		4	
12	第12章 運動(1) A. 骨格筋の神経支配について学習する。			教科書「第12章 運動」の各項目を予習、復習する。		4	
13	第12章 運動(2) B. 運動の調節 (a. 脊髄レベルでの調節) について学習する。					4	
14	第12章 運動(3) B. 運動の調節 (b. 脳幹、c. 小脳、d. 大脳基底核、e. 大脳皮質) について学習する。					4	
15	第12章 運動(4) C. 錐体路系と錐体外路系、D. 発声と言語について学習する。					4	
試	期末試験 達成度評価・評価のポイント参照						

【2023 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	100	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価の方法		評価のポイント					フィードバックの方法
行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	中間・期末試験を実施して評価する。評価割合は 100%とする。試験では授業中に取り組んだ課題や小テスト等の内容に基づく応用問題を出題し、理解度を問う。				試験結果の返却とともに、正解を提示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	教員はシステム神経生理学分野で 20 年以上研究実績を持つ。						
実践的授業の内容	専門性を生かして学生に「根拠に基づく医療」の実践に必要な不可欠な生理学全般の基礎知識および論理的思考力を教授する。						
そ の 他	本科目は登校による面接授業を予定している。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業への参加を認めない。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によってシラバスが変更される可能性がある。やむを得ず Teams を使った同時双方向型授業となる場合は、通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨する。通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。						